



## 2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年8月14日  
東

上場会社名 株式会社 ソフィアホールディングス 上場取引所  
コード番号 6942 URL <https://www.sophia.com/>  
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)林 哲也  
問合せ先責任者 (役職名)取締役 財務・IR担当 (氏名)巢山 貴裕 (TEL)03-6758-0455  
四半期報告書提出予定日 2019年8月14日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	1,833	115.1	29	—	25	—	0	—
2019年3月期第1四半期	852	△17.5	△112	—	△129	—	△142	—

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 1百万円 ( —%) 2019年3月期第1四半期 △143百万円 ( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	0.32	—
2019年3月期第1四半期	△65.04	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	8,626	725	8.4
2019年3月期	6,810	723	10.6

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 725百万円 2019年3月期 723百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年3月期	—				
2020年3月期(予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

当社グループを取り巻く事業環境は短期的に大きく変動する傾向にあり、業績の見通しにつきましては適正かつ合理的な数値の算出が困難であるため、四半期ごとに決算実績及び事業の概況をタイムリーに開示することにつとめ、業績予想の開示を控えさせていただいております。

なお、今後業績予想が可能になりました段階で改めて公表いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期1Q	2,737,720株	2019年3月期	2,737,720株
2020年3月期1Q	48,843株	2019年3月期	48,763株
2020年3月期1Q	2,688,915株	2019年3月期1Q	2,188,982株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで政府の各種政策の効果もあり、穏やかな回復が続くことが期待されております。ただし、海外経済の不確実性、金融資本市場の懸念に加え、相次いでいる自然災害の経済に与える影響により、先行きはやや不透明な状況にあります。

当社グループの既存事業であるインターネット関連事業及び通信事業におきましては、ICT（情報通信技術）を活用したサービスへの需要の高まりや、2020年に向けた社会インフラの再構築が加速する一方で、社会的には少子高齢化、働き手不足、そして政府より働き方が改革の課題として提案されるなど、当社グループを取り巻く事業環境は大きく変化しております。また、前連結会計年度より新たに参入した調剤薬局及びその周辺事業におきましては、同業他社だけでなく異業種を含む競争の激化、また、人手不足を背景とした人件費の増加、2018年4月からの調剤報酬改定もあり、当社グループを取り巻く環境は、依然厳しい状況が続いております。

このような環境の下、当社グループにおきましては、前期に引続き財務基盤を確立するため、各種施策を行いました。インターネット関連事業におきましては、継続した利益率改善を行うため、事業構造の見直しや収益性改善の取り組み、また、営業体制の整備及び新規顧客獲得の注力を行い、取引先の拡大に努めてまいりました。更に、システム開発案件の受託事業におけるエンジニアの採用・育成並びに、不動産仲介事業者向けASPサービスにおけるより優位性の高いソフトの開発等を行い、今後需要の拡大が予測されるAIやIoT分野への事業展開を見据え、更なる収益力の強化を推進してまいりました。通信事業におきましては、AI自動音声翻訳機とSIMを組み合わせたオンライン型翻訳サービスにおいて、より質の高い機能のサービス提供を目指し、アプリケーションの開発に取り組んでまいりました。調剤薬局事業におきましては、M&A等による事業の拡大に努め、また、調剤薬局事業としての管理機能を強化し、更なる経営の効率化及び顧客サービスの強化を図ることを目的として、2019年4月1日にルナ調剤株式会社を存続会社、有限会社ビーライク、有限会社コアラ、有限会社ユウアイファーマシー及び株式会社中嶋ファーマシーの4社を消滅会社とする当社連結子会社間の吸収合併を行いました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績としましては、売上高が1,833百万円(前年同四半期比115.1%増)となりました。利益面におきましては、営業利益29百万円(前年同四半期は営業損失112百万円)、経常利益25百万円(前年同四半期は経常損失129百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益0百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失142百万円)となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

#### [インターネット関連事業]

インターネット関連のシステム開発、データセンターの運用・保守及び不動産仲介事業者向けASPサービスの提供等を行い、システム開発案件の受託事業及び不動産仲介事業者向けASPサービス等が好調に推移し、売上高は247百万円(前年同四半期比5.9%増)、セグメント利益は28百万円(前年同四半期はセグメント損失15百万円)となりました。

#### [通信事業]

MVNO(※1)、FVNO(※2)やISP(※3)を中心とした情報通信サービスが順調な結果となったことなどにより、売上高は682百万円(前年同四半期比21.5%増)、セグメント利益は78百万円(前年同四半期比13.9%増)となりました。

#### [調剤薬局及びその周辺事業]

前期に引続き、M&A等による店舗数の拡大に努めつつ調剤薬局の運営を行った結果、売上高は884百万円(前年同四半期は16百万円)、セグメント損失は36百万円(前年同四半期はセグメント損失89百万円)となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間の末日現在において当社グループにおける薬局総数は、41店舗となりました。今後もM&Aを積極的に活用し、当該事業を拡大して参ります。

#### [その他]

WEBサイトの企画・運営及び管理等を行い、売上高は27百万円(前年同四半期比46.8%減)、セグメント利益は3百万円(前年同四半期はセグメント損失11百万円)となりました。

- (※1) Mobile Virtual Network Operatorの略。自社で無線通信回線設備を持たず、他の移動体通信業者から借りてあるいは再販を受けて移動体通信サービスを提供する事業者。
- (※2) Fixed Virtual Network Operatorの略。自社で固定回線のネットワークを持たず、他の事業者から借りてあるいは再販を受けて固定通信サービスを提供する事業者。
- (※3) Internet Services Providerの略。公衆通信回線等を経由して契約者にインターネットへの接続を提供する事業者。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は前連結会計年度末に比べ1,815百万円増加し、8,626百万円となりました。これは主として、のれんの増加によるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べ1,814百万円増加し、7,900百万円となりました。これは主として、借入金の増加によるものであります。

純資産合計は前連結会計年度末に比べ1百万円増加し、725百万円となりました。これは主として、利益剰余金の増加によるものであります。

なお、自己資本比率は8.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く事業環境は短期的に大きく変動する傾向にあり、業績の見通しにつきましては適正かつ合理的な数値の算出が困難であるため、四半期ごとに決算実績及び事業の概況をタイムリーに開示することにつとめ、業績予想の開示を控えさせていただいております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,789,555	2,626,849
受取手形及び売掛金	1,078,527	1,215,254
商品及び製品	262,578	431,642
その他	146,241	215,056
貸倒引当金	△4,398	△1,240
流動資産合計	4,272,504	4,487,561
固定資産		
有形固定資産	165,611	231,112
無形固定資産		
のれん	2,130,213	3,612,375
その他	8,544	9,694
無形固定資産合計	2,138,757	3,622,070
投資その他の資産		
敷金及び保証金	96,896	117,582
その他	191,859	219,510
貸倒引当金	△54,864	△51,688
投資その他の資産合計	233,890	285,404
固定資産合計	2,538,260	4,138,587
資産合計	6,810,764	8,626,149

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,237,645	1,730,865
短期借入金	680,640	661,800
1年内返済予定の長期借入金	719,396	961,474
1年内償還予定の社債	57,200	57,200
未払金	140,806	234,857
未払法人税等	96,129	24,650
預り金	446,996	30,151
賞与引当金	4,058	14,371
その他	127,919	144,796
流動負債合計	3,510,793	3,860,168
固定負債		
社債	263,800	235,200
長期借入金	2,243,596	3,732,560
退職給付に係る負債	379	3,511
その他	68,199	69,413
固定負債合計	2,575,975	4,040,685
負債合計	6,086,768	7,900,854
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,358,000	2,358,000
資本剰余金	652,887	652,887
利益剰余金	△2,218,613	△2,217,732
自己株式	△61,965	△62,045
株主資本合計	730,307	731,109
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△6,312	△5,814
その他の包括利益累計額合計	△6,312	△5,814
純資産合計	723,995	725,295
負債純資産合計	6,810,764	8,626,149

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	852,381	1,833,131
売上原価	631,522	1,220,281
売上総利益	220,859	612,849
販売費及び一般管理費	333,548	583,660
営業利益又は営業損失(△)	△112,688	29,189
営業外収益		
受取利息	115	144
受取配当金	—	4
為替差益	864	—
貸倒引当金戻入額	510	6,574
その他	529	3,059
営業外収益合計	2,021	9,783
営業外費用		
支払利息	3,831	10,346
借入手数料	15,000	944
為替差損	—	528
その他	85	1,483
営業外費用合計	18,916	13,302
経常利益又は経常損失(△)	△129,584	25,670
特別損失		
減損損失	800	—
特別損失合計	800	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△130,384	25,670
法人税、住民税及び事業税	10,216	19,702
法人税等調整額	1,764	5,086
法人税等合計	11,980	24,789
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△142,365	881
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△142,365	881



(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△142,365	881
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△793	498
その他の包括利益合計	△793	498
四半期包括利益	△143,158	1,379
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△143,158	1,379
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	インター ネット関連 事業	通信事業	調剤薬局 及びその 周辺事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	223,864	560,974	16,494	801,332	51,048	852,381
セグメント間の内部 売上高又は振替高	9,621	696	—	10,318	551	10,870
計	233,485	561,670	16,494	811,650	51,600	863,251
セグメント利益 又は損失(△)	△15,646	68,568	△89,048	△36,126	△11,468	△47,595

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ECサイト関連事業、海外事業、及び健康医療介護情報サービス事業を含んでおります。

2. 「調剤薬局及びその周辺事業」については、有限会社ビーライクを完全子会社化し、連結の範囲に含めておりますが、みなし取得日を2018年6月30日としているため、当第1四半期連結会計期間においては、当該子会社の四半期貸借対照表のみを連結しております。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	△36,126
「その他」の区分の利益	△11,468
セグメント間取引消去	△2
全社損益(注)	△65,091
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△112,688

(注) 全社損益は、主に提出会社に係る損益であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、当社グループ（当社及び連結子会社10社）は、2018年4月1日付にて調剤薬局及びその周辺事業を推進する会社を設置すると共に、健康医療介護情報サービス事業の機能集約をはかり、資源を効率的に活用可能な体制整備のため、グループ内組織再編を実施いたしました。

これに伴い、当第1四半期連結会計期間から、「調剤薬局及びその周辺事業」を報告セグメントとして新たに追加しております。

「遺伝子情報サービス事業」については、本事業の主体であった株式会社ジーンクエストを2017年10月1日付で株式交換を行い連結の範囲から除外したことに伴い、当第1四半期よりセグメント区分から削除しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（のれんの金額の重要な変動）

「調剤薬局及びその周辺事業」セグメントにおいて、のれんの金額に重要な変動が生じております。

有限会社ビーライクの連結子会社化、ルナ調剤株式会社での有限会社ティエヌ商会からの事業譲受が主な要因となっております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間においては320,722千円であります。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	インター ネット関連 事業	通信事業	調剤薬局 及びその 周辺事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	239,422	682,030	884,603	1,806,057	27,073	1,833,131
セグメント間の内部 売上高又は振替高	7,891	498	—	8,389	375	8,764
計	247,314	682,529	884,603	1,814,447	27,448	1,841,896
セグメント利益 又は損失(△)	28,865	78,093	△36,474	70,484	3,760	74,245

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ECサイト関連事業、海外事業、及び健康医療介護情報サービス事業を含んでおります。

2. 「調剤薬局及びその周辺事業」については、有限会社長東薬局、株式会社長東、及び有限会社三榮を完全子会社化し、連結の範囲に含めておりますが、みなし取得日を2019年6月30日としているため、当第1四半期連結会計期間においては、当該子会社の四半期貸借対照表のみを連結しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	70,484
「その他」の区分の利益	3,760
セグメント間取引消去	69
全社損益(注)	△45,124
四半期連結損益計算書の営業利益	29,189

(注) 全社損益は、主に提出会社に係る損益であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間から、従来「健康医療介護情報サービス事業」について、量的な重要性が低下したため「その他」として記載する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成したものを記載しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「調剤薬局及びその周辺事業」セグメントにおいて、のれんの金額に重要な変動が生じております。有限会社長東薬局及び株式会社長東の連結子会社化が主な要因となっております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間においては1,529,092千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(株式取得による子会社化)

当社の連結子会社であるルナ調剤株式会社は、2019年5月25日開催の取締役会において、株式会社アルファメディックスの全株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、2019年7月1日付で全株式を取得しました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称	株式会社アルファメディックス
事業の内容	調剤薬局事業

(2) 企業結合を行った主な理由

調剤薬局事業の拡大を推進することを目的として本株式の取得を決定したものであります。

(3) 企業結合日

2019年7月1日

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得する議決権比率

100.0%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の連結子会社であるルナ調剤株式会社による現金を対価とする株式取得であるためです。

2. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	70,000千円
取得原価		70,000千円

3. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー業務に対する報酬・手数料等 21,500千円

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。

(取得による企業結合)

当社の連結子会社であるルナ調剤株式会社は、2019年7月2日開催の取締役会において、盛徳商事有限会社の全株式を取得し、子会社化することについて決議し、2019年7月5日付で株式譲渡契約を締結し、2019年8月1日付で全株式を取得しました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称	盛徳商事有限会社
事業の内容	調剤薬局事業

(2) 企業結合を行った主な理由

調剤薬局事業の拡大を推進することを目的として本株式の取得を決定したものであります。

(3) 企業結合日

2019年8月1日

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

100.0%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の連結子会社であるルナ調剤株式会社による現金を対価とする株式取得であるためです。

2. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	80,000千円
取得原価		80,000千円

3. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー業務に対する報酬・手数料等 12,000千円

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。

(事業の譲受)

当社の連結子会社であるソフィア総合研究所株式会社は、2019年7月2日開催の取締役会において、株式会社アールエムエスのSSL証明書販売事業の譲受について決議し、同日付で事業譲渡契約を締結し、2019年8月1日付で当該事業を譲り受けました。

1. 事業譲受の概要

(1) 譲受先企業の名称及び譲受事業の内容

譲受先企業の名称 株式会社アールエムエス

譲受事業の内容 SSL証明書販売事業

(2) 事業譲受を行った主な理由

インターネット関連事業の拡大を推進することを目的として本事業譲受を決定したものであります。

(3) 事業譲受日

2019年8月1日

(4) 事業譲受の法的形式

現金を対価とする事業譲受

(5) 譲受企業の名称

ソフィア総合研究所株式会社

2. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	22,000千円
-------	----	----------

取得原価		22,000千円
------	--	----------

3. 主要な取得関連費用の内容及び金額

現時点では確定しておりません。

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。